

学会記事

日本地質学会2018年度 第4回理事会議事録

日時：2019年4月6日（土） 14:00-17:00

会場：北とびあ 902会議室
（東京都北区王子1-1）

出席役員 理事（33名）：天野一男 安藤寿男 磯崎行雄 岩井雅夫 ウォリスサイモン 大藤 茂 岡田 誠 緒方信一 笠間友博 狩野彰宏 神谷奈々 川端清司 小松原純子小宮 剛 齋藤 眞 坂口有人 佐々木和彦 菖蒲幸男 菅沼悠介 杉田律子 高嶋 洋 竹内 誠 田村嘉之 中澤 努 西 弘嗣 平田大二 廣木義久 星 博幸 松田博貴 山口耕生 矢島道子 山崎晴雄 山路 敦

監 事（2名）：藤本光一郎 山本正司
（事務局）橋辺

欠席役員 理事（17名）：井龍康文 石橋隆 折橋裕二 亀尾浩司 亀田 純 北村有迅 沢田 健 竹下 徹 田村芳彦 辻森 樹 奈良正和 楡井 久 早坂康隆 福富幹男 保柳康一 三田村宗樹 道林克禎

* 松田会長より挨拶

* 成立要件：理事総数50名の過半数26名 本日の出席者 33名で本理事会は成立。

* 議決：出席者の過半数 17名

* 開催にあたって、岩井理事および高嶋理事を書記に指名。

報告事項

1. 執行理事会報告（齋藤常務理事）

・ 齋藤常務理事より、配付資料（執行理事会議事録2019-1,2,3, 理事会議事録2018-12）ならびに追加閲覧資料（1.東赤石山「明石山荘」存続について（要望書）、2. 研究論文不正問題を受けて会員への呼びかけ、3.日本地質学会事務局員就業規則）に基づき、執行理事会議事概要が報告された。

・ 緒方理事より、会員動向（72名減）について報告があった。

・ 9月理事会以降の逝去者として名誉会員5名・正会員3名の逝去が報告され、黙祷を捧げた。

2. 理事及び委員会等報告

1) “学術大会に関する緊急時対応”についての改定案（松田会長）:2014年7月作成で2016年1月に改定されていた表記について改定案が提示され、山口大会より適用する旨報告された。

2) アイランドアーク編集委員会（田村理事）：松田会長（田村理事代理）より、インパクトファクター、投稿状況について報告があり、アイランドアークへの投稿・活用が呼びかけられた。

3) 125周年記念事業実行委員会（佐々木理事）：佐々木理事より125実行委員会を代表し

て125周年記念事業の成果や収支概要について報告がなされた。事業の最終報告書は5月報告予定であることが示された。

4) 地質学雑誌のあり方を考えるタスクフォース（齋藤理事）：「地質学雑誌あり方についてのアンケートを受けての方針」について、配布報告内容一部修正の後、地質学雑誌の電子ジャーナル化を含む会員サービス充実の必要性について示された。

5) 山口大会における若手会員のための宿泊先幹旋事業（神谷理事）：若手会員に対する宿泊先幹旋事業を山口大会において実施する旨報告され、受け入れ対象や運営の安全対策等について議論がなされた。

6) 年会講演要旨集の在り方について（岡田理事）：学会の演題登録システム利用拡張による冊子体廃止全電子化を検討中である旨報告された。

審議事項

1. 2018年度事業実施概要

松田会長より2018年度事業計画に照らした実施事業実績の概要について説明がなされた。また、小宮理事より、地質学会提案の大型研究課題「地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築」の提案状況、今後の審査過程（5月連合大会での公聴会とアンケート投票、地球科学分野で採択されれば9月にヒアリング）について補足説明の後、拍手で承認された。

2. 2019年度事業計画

松田会長より2019年度事業計画骨子（案）について説明がなされ、拍手で承認された。

3. 2018年度決算概算

西理事より2018年度決算概算について説明がなされ、年会在2日目に降中止され、つくば大会を実施したにもかかわらず支出はあまり変わらなかったことの報告、並びに年々会員数減少の中での厳しい財政状況は、今後の学会運営に際して危機的状況であることの注意喚起がなされた。

4. 2019年度予算案

西理事より予算案について、決算同様厳しい内容であることの説明がなされた。これに対し、国際交流事業の在り方等の質疑が行われ、予算案では、国際交流はほとんど実施できない指摘があったが、協定学会との交流などのために予算が必要となった時には随時対応するという説明があった。

なお、125周年記念事業残金（引当金）の今後の取り扱いについては執行理事会で検討の後理事会に提案、また、「365地球の話」監修費収入の配分についても、執行理事会で検討させていただきたいということも含め、3項の決算概算案、本予算案は共に承認された。

5. 各賞受賞者の決定

各賞選考委員会委員長竹内理事より各賞受賞者について報告がなされた。

推薦状況ならびに審査過程、表彰数の取り扱いなどについて質疑が行われ、今後、より

推薦数を増やさなければならぬことが確認された。なお、日本地質学会表彰は2件のうちの1件は、表彰の趣旨は同様であるがそれぞれ別団体であるので、これを2件とし、授与数は合計3件とするこの変更を含めて承認された。

6. 名誉会員候補者の選出

名誉会員推薦委員会佐々木委員長より、小玉喜三郎会員を名誉会員候補者として選考したことが報告され、総会に推挙することが承認された。

7. 総会議案の決定

齋藤理事より総会議案について提案がなされ、承認された。

8. 地質学雑誌投稿編集出版規則・引用文献の書式に関する細則・講座に関する細則・数式の書き方に関する細則の変更

地質学雑誌編集委員会委員長大藤理事より、地質学雑誌の投稿数増加に向けた施策について報告がなされた。これに伴い地質学雑誌投稿編集出版規則および細則の改定案が提案され、審議の結果、投稿編集出版規則変更の一部を修正のうえ、承認された。

9. 事務局員採用と就業規則等の改正について

緒方理事より、先に採用した秋葉事務局長の体調不良による退任と新規事務局員（有期雇用）1名採用までの経過説明がなされた。続いて佐々木副会長より、今後の事務局運営に関し法律の改正を踏まえた「事務局員就業規則」の改定、「契約職員規定」の策定が提案され、承認された。

10. その他

本年5月総会の後、理事会の開催が提案され承認された。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2019年 5月17日

理事：議長 狩野彰宏

理事：副議長 杉田律子

代表理事：会長 松田博貴

理事：副会長 佐々木和彦

理事：副会長 平田大二

監事：藤本光一郎・山本正司

理事：出席理事名（省略）

2018年度第7回執行理事会議事録

期 日：2019年2月23日（土） 13:00～16:30

場 所：地質学会事務局

出席者：松田会長、佐々木副会長、齋藤常務理事、安藤、磯崎、ウォリス、大藤、緒方、岡田、小宮、田村、西、星、（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり、カッコ内は委任者）：平田副会長、坂口、辻森（磯崎）、中澤、廣木

*定足数（12、委任状含む）に対し、出席者13名、委任状5名、合計18名の出席。

*1月議事録を承認した。

I 審議事項

1. 学術大会に関する緊急時対応について（松田）：2016/01/23作成の緊急時対応にもとづいて論点整理を行った。次回の執行理事会で改定案を作成し、理事会に提案する。

2. 事務局職員の採用について（佐々木）：ハローワーク飯田橋に求人相談の上、求人者の申し込み（1/29）し応募受付を依頼した。11名応募があり、書類審査の後、7名を面接（2/18, 20, 23）し、現在候補者を選考中。

II 報告事項

1. 全体的報告

1) 山田科学振興財団2019年度助成金への応募はその後応募者が1件あり、予定どおり磯崎学術研究部会担当理事による応募内容確認の結果、推薦することとなり、2件を推薦した。

2) 昨年9/18に実施された科研費の実地検査についての結果通知があり、科研費の規定、補助条件への抵触については問題なし、「保管すべき関係書類の整理、改善が望まれる」とのコメントが付いた。これについての検査時の具体的コメントは以下のようであった。

・感熱紙の領収書は、コピーをとって保存する。アルバイト賃金の様式にある担当者欄の印が抜けている、通信先（ポスター、パンフの送り先）の一覧表を残すこと。

3) 一家に1枚のポスター作成の準備進行状況（磯崎）

・普及、広報活動への協力をいただくため、次の4団体に後援を依頼し承諾を得た。日本古生物学会、（一社）日本鉱物科学会、（NPO）地学オリンピック日本委員会、（公社）地球惑星科学連合

・4月発行にむけて校正作業中。校正稿を回覧。地質学会には1000枚送られてくるので、配布先を今後検討する。

・4/21にポスター披露会（日本科学館）がおこなわれるので岩石、地質図床張り展示などAIST地質情報センター協力要請。文科からAISTに後援依頼をしてもらう。ごどもゆめ基金（日本地質学会運営）のWebデモも行う（小宮）。

4) 大型研究計画とマスタープラン2020（小宮）

・提案・審査状況について情報交換
JpGU連合大会でセッションを開催する予定

今後ブラッシュアップに向けて、学術大会でのトピックセッション等を行う。

2. 運営財政部会：総務委員会（緒方・西）

<共催・後援依頼、他団体の募集等>

1) 科学教育研究協議会第66回全国大会（福

岡）の後援を承諾

2) 筑波大学2019年度「科学の芽賞」の後援を承諾

3) 「地盤技術フォーラム2019」（日本工業新聞社）の協賛名義使用依頼を承諾。

4) 東レ科学振興会第59回授与式の案内、地質学関係の受賞者はなし（欠席）。

5) 苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業、研究活動助成（6件、60万）→HP、geo-flash、News誌に掲載

6) 第11回 地理学連携機構、地理関連学会連合、人文・経済地理関連学会協議会合同総会（3月19日）の開催について（欠席）

<会員>

1. 今月の入会者（正会員 3名）

正会員（2名） 岩島真理 亀井満夫

正（学部学生割引）会員（1名） 塩谷 輝

2. 今月の退会者 なし

3. 今月の逝去者（3名）

名誉会員 中沢圭二（1/15）、

正会員 堀 秀道（1/3）、松居 誠一郎

（2/13）

4. 2019年1月末日会員数

賛助：27、名誉：52、正会員：3600（正会員：3416、正院割会員：175、正学部割会員：9）、合計 3679（-58）

<会計>

・決算予想について、12月までの概算資料で確認した。

3. 広報部会：広報委員会（坂口・小宮）

・フォトコンテスト

応募総数：348点（うち、一般：328、中学・高校：28）応募が昨年より減少

2次審査：2月25日（月）14:00～

展示会場を確保済み。上野駅西洋美術館横の上野グリーンサロン

・Websiteについて、誤記等があれば、訂正する

4. 学術研究部会（磯崎・ウォリス・岡田・辻森）

（1）行事委員会（岡田）

1) 山口大会

・運営委託会社は、近畿日本ツーリスト広島支店に委託することになった。

・実行委員会よりシンポジウムの提案2件（歪帯、土砂災害）。

・湯田温泉駅から山口大学吉田キャンパス間のアクセスについては、混雑時に路線バスの増発を交渉するなど、学会に経費負担のない方法を検討する。

・山口大会としてのキャッチフレーズは用意しない、また、参加者向けに複数のポスター等について検討中。

（2）国際交流委員会（ウォリス）

・タイ地質学会との学術交流協定を進めるため、ウォリス理事が3月28日～31日にタイを訪問することになった。台湾についても先方から招待をうけ訪問の予定。

・協定学会（韓国地質学会、台湾地質学会、モンゴル地質学会）より新年の挨拶状

・交流の状況について地質学会ニュース紙

に紹介記事を載せる。

（3）JIS、標準担当（中澤）

・JIS A0204、0205 3/20公示予定

（4）学術大会のシンポジウム提案の仕方について（磯崎）

・次年度以降、開催校（LOC）提案に加えて、広域分野の最新研究動向を討論できるようなシンポジウム提案の仕組みを作るべきではないか。次回の執行理事会で検討する。学術研究部会の専門部会連絡委員会等でも検討する。

5. 編集出版部会（大藤・田村）

（1）地質学雑誌編集委員会（大藤）

1) 編集状況報告（2月15日現在）

・2019年投稿論文：10編 [内訳] 総説1（和文）、論説4（和文3・英文1）、報告2（和文1・英文1）、巡検案内書2、口絵1（和文1）
査読中：25、受理済み：24（うち特集号7）

・125巻1月号：125特集号「日本における第四紀層序学の高精度化」6編+通常号1編、計118頁、12/1発送済

・125巻2月号：通常号6編（総説1、論説4、報告1）計80頁、2/20校了、2/28発送予定

・125巻3月号：通常号5 or 6編 約70頁、入稿準備中

2) 125周年記念特集号状況（2019年2月19日現在）

・編集状況を確認、2019年3月までに終了する見込みとのこと。

（2）アイランドアーク編集委員会（田村）

1. 出版状況報告：ダウンロード数ベスト20の状況報告があり、Vol.25, 2016, Vol.26, 2017の論文が極めて少ないため、次年度のIFが下がる可能性あり。Vol.27, 2018はOpen Access, Free Access論文が多いので、2020は上昇が期待できる。

2. Wiley社から掲載論文のビデオ・アブストラクトの作成サービス（有料の案内があり、田村委員長の論文で実際に作成され、アイランドアークのサイトに掲載されている。執行理事会でも視聴したところ好評だったため、会員にもニュース誌等で案内することとなった。

（3）企画出版委員会（小宮）

・岩波書店「地球全史スーパー年表」の増刷（4刷1500部、製本1000部）連絡あり。

6. 社会貢献部会（星・廣木・中澤）

・とくになし

7. 地質技術者教育委員会

・JABEE委員会、技術者継続教育委員会が合体してできた本委員会は、故山本理事を委員長として活動していたが、現在は委員長不在になっており、体制の再検討が必要である。

・CPD継続教育の会議が3月に開催されるので、佐々木理事が参加する。

8. ジオパーク支援委員会（平田）

・第36回日本ジオパーク委員会の再審査結果（1/19）が松田会長から紹介された。

9. 地学オリンピック支援委員会（星）

- ・3月につくばで日本地学オリンピック本選の予定
- ・3/31に支援委員会開催予定（地質学会事務局）
- 10. 県の石支援委員会（辻森）
 - ・とくになし
- 11. 125実行委員会（佐々木）
 - ・最終報告書、アーカイブ情報の取りまとめ作業中.

以上

2019年 3月23日
 一般社団法人日本地質学会執行理事会
 会長（代表理事）松田博貴
 署名人 執行理事 斎藤 眞

2018年度第8回執行理事会議事録

期 日：2019年3月23日（土） 13:00～18:00
 場 所：地質学会事務局

出席者：松田会長、佐々木副会長、平田副会長、斎藤常務理事、安藤、磯崎、大藤、緒方、岡田 小宮、坂口、田村、辻森、中澤、西、廣木、星（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり、カッコ内は委任者）：ウォリス

*定足数（12、委任状含む）に対し、出席者17名、委任状1名、合計18名の出席。

*2月議事録の確認

I 審議事項

- 2018年度事業実施報告概要（松田）
12月理事会提出の資料に変更箇所を訂正して承認した。
- 2019年度事業計画・予算案の検討（松田、西・緒方）
 - ・事業計画案は、12月理事会提出の資料に変更箇所を訂正して承認した。
 - ・決算、予算案について説明の後、会の財務状況についての現状について検討した。
 - ・現時点の予算案では赤字が見込まれるため、できる限りの支出抑制をさらに検討したうえで、引当金を充当した単年度収支ゼロの予算案を理事会に提出する。
- 事務局の働き方改革について（佐々木・緒方）
 - ・事務局職員の勤務実態の状況から、負担軽減策を行っていく必要性を再確認した。
 - ・就業規則の改定、労基法36協定の締結等、事務局体制の整備を進めていく。
 - ・改正案等については今月末までに意見をメールで聴取、検討した上、4/6の理事会で承認を受ける。なお、1月の執行理事会で承認されたパート事務局員就業規則（2019年1月1日施行）については、現時点では理事会に正式に上程されていないので、今回

- の「契約職員規程」策定に統合し廃止する。
- ・日本地質学会事務局就業規則の改正
- ・日本地質学会契約職員規程の策定
- 4. 執行体制の見直しについて（佐々木）
 - ・委員会等の活動の現状や問題点等の把握を進めているので、今期体制の中で整理見直しを着実に進める。
- 5. “学術大会に関する緊急時対応について”改定案（松田）
 - ・現在学会HPに規則類（指針2016.1.23一部改正）の一つとして掲載されているが、昨年度、本年度の経験から明らかとなった問題やケースを考慮し、条文を修正して改定する。
- 6. 年会発表登録・プログラムの作成システムと講演要旨の公表方法についての検討（岡田）
 - ・講演要旨集の Online（Confit）システムの採用について、費用や効果、会員サービスとしての有効性について検討し、来年度に運用の可能性を検討する。山口大会は従来通り印刷物の発行とする。ただしその検討を行っている旨は山口大会でも広報しておく。
- 7. 地質学雑誌の投稿数増加に向けた方策（案）（大藤）
 - ・投稿数増加策や雑誌としての拡充策が幾つも提案されたので、種々検討の上早期に進めることにした。これに伴う地質学雑誌投稿編集出版規則の改正案については、次回の理事会に提案することとした。
- 8. 地質学雑誌のあり方についてのアンケートを受けての方針（斎藤）
 - ・報告文案を検討して修正の上理事会に報告する。
- 9. 理事会審議事項について
 - 1) 2018年度事業実施概要、2) 決算概算、3) 2019年度事業計画、4) 2019年度予算案
 - 5) 各賞受賞者の決定について、6) 名誉会員候補者の選出について、7) 総会議案の決定：1号 2018年度事業報告・決算報告、2号 2019年度事業計画3号 2019年度予算案、4号 名誉会員の選出
- 10. 総会関連スケジュールの確認と決定
5月25日（土）
 - 10:00-10:30 執行理事会（総会事前打ち合わせ程度）
 - 11:00-12:30 フォトコン表彰式
 - 14:00-15:30 総会
 - 16:00-17:00 理事会
- 11. 平成31年度大学入試センター試験の地学関連科目に関する意見書（廣木）
 - ・本年度の試験結果の報告を検討の上、文案通り意見書を提出することを承認した。
- 12. 東赤石山の山小屋“赤石山荘”の経営継続のために、新居浜市および愛媛県への移管要請活動を行う、関係者からの学会への支援要請の件（ウォリス、代松田）
 - ・学会としては要望書の提出、活動紹介をニュース誌に掲載するのは可能であるが、署

名については関係者でやってもらうことが望ましく、学会としては関与しないこととした。

13. Island Arc の編集長の公募と委員長への謝金支給について（田村）
 - ・編集長を選出・交代する方法について、公募案と編集長を引き受けてもらいやすくするための謝金支給に関して提案があったが、継続審議とした。

II 報告事項

- 全体的報告
 - 事務局員の採用について
前回執行理事会以降の、採用活動状況について報告があった（緒方）。
 - 一家に1枚のポスター「日本列島7億年」完成報告（辻森）
 - ・完成版と文科省での記者発表（3/27）の紹介があり、その直後に学会としてのプレスリリース（投げ込み）を実施することを確認した。会員にもジオフラッシュを通じて報告することとした。（その後、4/9（火）への日程変更の連絡あり）
 - ・4/21（日）に日本科学館主催でお披露目のイベントが実施されるが、辻森、磯崎理事が参加し、学会としてもWeb教材のデモンストレーションなどで協力要請に応える。産総研も展示協力をする。
 - ・ポスターは学会に対し1000枚（A 2判）が配布されたが、年会や後援していただいた学会等の行事で配布することも含め、学会員への情報提供や、アウトリーチのために増刷することとした。
 - 大型研究の提案フォーラムのドラフト（小宮）
 - ・「宇宙・地球研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築」として申請するので、申請内容について27日頃までに修正案を募り、取りまとめて提出する。
 - その他
 - 運営財政部会：総務委員会（緒方・西）<共催・後援依頼、他団体の募集等>
 - 1) 三浦半島活断層調査会（会長：茅野敬幸）地質の日記念講座「三浦活断層群主部、北武断層」（2019/05/04）の後援依頼を承諾した。
 - 2) 日本粘土学会第63回粘土科学討論会（2019/09/10-12、埼玉大学）の後援を承諾した。
 - 3) 第19回こどものためのジオカーニバル（2018/11/3-4、後援）の実施報告：参加者3,100名（小中高生と保護者、教育関係者、セミナー4、ブース15（うち地質分野9）。なお、芝川会員によりWeb教材の普及活動も実施された。
 - 4) 山口大学理学部サイエンスワールド2018（2018/10/27、後援）の実施報告：来場者1,129 院生、学生による名企画展示ブース13、県内4博物館の展示ブース、学内科学体験ツアーコース2など、日本化学会の夢化学21も同時開催。